

図書館  
展示

# 「歓喜の歌」

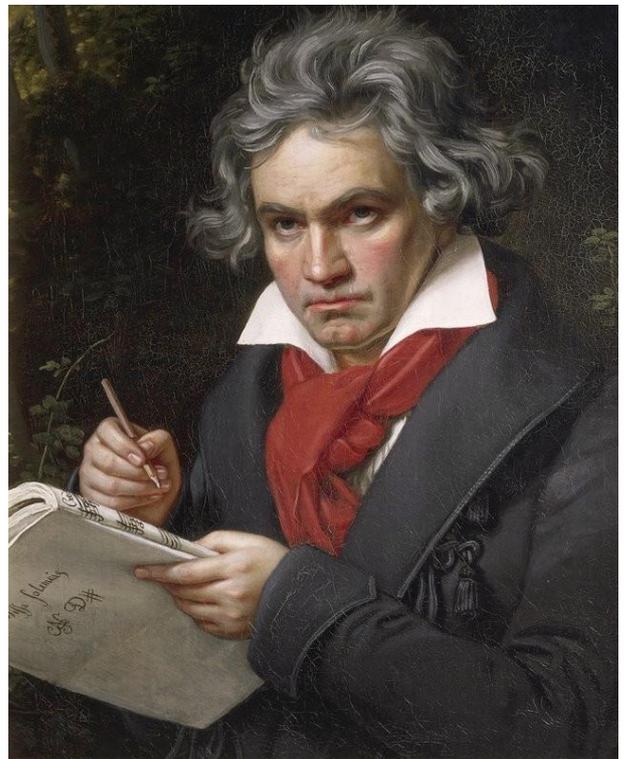
## その旋律のルーツとは

—ベートーヴェン生誕 250 周年記念展示—

2020 年 1 月 20 日(月)~3 月 30 日(月)

2020 年はルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの生誕 250 年にあたります。彼の言わずと知れた代表曲であり、日本でも年末の風物詩として親しまれている「第九」。その有名な「歓喜の歌」の旋律の元となる作品があったことをご存知でしょうか？

今回は、当館が所蔵するベートーヴェンコレクションの中から貴重楽譜を展示し、沼口隆先生の解説で「歓喜の歌」のルーツを紐解いてみたいと思います。



期間中、4号館図書館エントランスにて展示中！



ベートーヴェン Ludwig van Beethoven (1770~1827) の「第九」は、とりわけ第4楽章の「合唱」を通じて世界中で親しまれています。「合唱」はテキストと旋律から成りますが、それぞれには興味深いルーツが考えられます。

シラーの頌詩「歓喜に寄せて」が発表されたのは1786年。ベートーヴェンはすでに1793年には、この詩への付曲を構想していたようです。その後にも少なくとも2度、作曲を企図したらしく、頭にずっと「歓喜に寄せて」があったらしい様子が窺われます。

「合唱」は、管弦楽曲を締めくくるという点だけでも、《合唱幻想曲》op. 80の合唱部分と似ています。両者は、旋律にも共通性がありますが、《合唱幻想曲》の旋律は、歌曲〈応える愛〉WoO 118に遡るものです。

「合唱」のテキストも旋律もそれぞれに、ベートーヴェンの頭の中で30年近くも温められていたものとも言えます。今回の展示では、その旋律の変遷を辿ってみましょう。

## ■展示資料

### 交響曲第九番 Op. 125 自筆譜ファクシミリ

タイトル等：Sinfonie no. 9, op. 125 : autograph, Staatsbibliothek zu Berlin, Preussischer Kulturbesitz, Beethoven-Haus Bonn, Bibliothèque nationale de France / Ludwig Van Beethoven : commentary by Lewis Lockwood, Jonathan Del Mar, and Martina Rebmann

出版事項：Kassel : Bärenreiter , c2010

資料 ID : A012781

「第九」に直接的に繋がる構想は、1815年頃にまで遡りますが、創作の本質的な部分は1823年初頭から1824年2月頃に掛けて集中的に行われました。作曲者自身が比較的早い段階から、第4楽章に関して《合唱幻想曲》を意識していたことは、「その[新しい大規模な]交響曲には、合唱と独唱を伴う大規模なフィナーレがあり、私の合唱幻想曲と同じようなやり方ではあるけれども、あれよりも大きく作られています」(ベートーヴェンの1822年12月27付の書簡)という言葉にも明らかです。実際の自筆譜は分散していますが、主要部分を成すベルリン州立図書館所蔵の資料は2001年にユネスコの「世界の記憶」に登録されています。

### 交響曲第九番 Op. 125 スコア初版

タイトル等：Sinfonie / mit Schluss - Chor über Schillers Ode: "An die Freude" / für grosses Orchester, 4 Solo- und 4 Chor- Stimmen, / componirt und / SEINER MAJESTAET dem KÖNIG von PREUSSEN / FRIEDRICH WILHELM III. / in tiefster Ehrfurcht zugeeignet / von / Ludwig van Beethoven. / 125tes. Werk. / Eigenthum der Verleger. / Mainz und Paris, / bey B. Schotts Söhnen. Antwerpen, bey A. Schott.

出版事項：Mainz : Schot, [1826]

資料 ID : S012198

「第九」の第4楽章のユニークな点のひとつは、先行する3つの楽章の冒頭楽想が回想され、それらがひとつひとつ低弦によって否定されていくことです。「否定」と捉えるのは勝手な解釈ではありません。スケッチの中には、そのようなプロットらしきものが書き込まれており「これだ そう やっと見つかったぞ」と言って歓喜の歌を見出す流れになっているのです。そこに込められた思いは、さまざまな解釈に向けて開かれていますし、また作曲者の思いとは別の次元で、我々にとっての自由な解釈に向けても開かれています。展示されているのは原版で、ベートーヴェンの作品目録にも、国立音楽大学が所蔵していることが明記されています。

### 合唱幻想曲 Op. 80 ピアノ 4 手編曲版

タイトル等：FANTASIE / für / Pianoforte, Orchester und Chor / arrangirt / für das Pianoforte zu vier Händen / componirt / von / L. van BEETHOVEN. / [l.:] Op. 80. [c.:] Eigentum der Verleger. [r.:] Pr. 1 Thlr. 8 Gr. / [Leipzig, bei Breitkopf & Härtel] / 6074. / Eingetragen in das Vereins-Archiv

出版事項：Leipzig：Breitkopf & Härtel [1839]

資料 ID：S012062

合唱幻想曲の合唱部分には既存の歌曲〈応える愛〉の旋律が用いられています。調の違いはありますが、主旋律の前半部分を主音を「1」として音度で記してみると類似性は明白です（下線は同じ動きです）。〈第九〉の最後の部分を除き、それぞれにすべてが同じ音価で歌われており、例外なく順次進行である点も近親性を非常に高めています。

3-3-4-3-2-1-1-7-6-7-1-1-2-3-3-2  
3-3-4-5-5-4-3-2-1-1-2-3-3-2-2

テキストを伴わない4手用編曲版は、1839年にブライトコプフ・ウント・ヘルテル社から出版されたもので、展示資料もオリジナルに近いものと考えられます。

### 合唱幻想曲 Op. 80 ミニチュアスコア

タイトル等：Chorfantasie, Opus 80 ; und andere Werke für Chor und Orchester / Beethoven ; herausgegeben von Armin Raab

出版事項：München：G. Henle, [2001], c1998

資料 ID：E013969

ベートーヴェンが1808年12月22日にアン・デア・ヴィーン劇場で開催した自益演奏会は、交響曲第5・6番の初演が含まれていることにも象徴されているように、ベートーヴェンのいわゆる「傑作の森」の集大成となる演奏会でした。演奏会として成功であったわけではないにせよ、4時間を超えるほどの演目は名作ぞろいであり、ベートーヴェンが協奏曲のソリストとして登場した最後の機会ともなりました。壮大な演奏会の最後を飾るべくして急遽、大急ぎで作曲されたのが、ベートーヴェン自身によるピアノ独奏の幻想曲で幕を開け、ピアノ協奏曲風のピアノと管弦楽の掛け合いを経て、管弦楽と合唱の大団円へと至る《合唱幻想曲》です。

### 歌曲〈応える愛 Gegenliebe〉 Wo0 118 初版

タイトル等：SEUFZER EINES UNGELIEBTEN / Gedicht von G. A. Bürger. / DIE LAUTE KLAGE. / Gedicht von Herder. / In Musik gesetzt / FÜR EINE SINGSTIMME / mit Begleitung des Piano-Forte / von / LUDW. VAN BEETHOVEN. / Nach dem Original Manuscript, aus dessen / NACH dem Original Manuscript, aus dessen / NACHLASSE. / Eigentum der Verleger. / Eingetragen in das Vereins-Archiv. / [l.:] No. 6271. [r.:] Pr. f 1. C. M. / WIEN, bei Ant. Diabelli u. Comp. / Graben No. 1133.

出版事項：Wien：A. Diabelli & Co., [1837]

資料 ID：S012303

Wo0 118は、ビュルガーGottfried August Bürger (1747~94) の二つの詩を一つの作品として作曲したもので、前半が変ホ長調の〈愛されない者のため息 Seufzer eines Ungeliebten〉、後半がハ長調の〈応える愛 Gegenliebe〉となっています。《合唱幻想曲》へと引き継がれたのは〈応える愛〉の冒頭の旋律です。スケッチは1794年末から翌年初頭のものとして推定されていますが、完成稿の存在が知られていないため、没後10年を経た1837年の出版の際には、細部を補筆された可能性もあります。展示されているのはヴィーンのディアベリ社が出版した初版譜です。

展示資料関連図書リストは図書館ホームページでも公開しています。

<https://www.lib.kunitachi.ac.jp/>

2020.1 国立音楽大学附属図書館

